**中部支部ニュース** 第２号

２０１２年７月２２日発行

　 　　　　　 　　　　　　日本比較文化学会中部支部

**平成23年度中部支部総会報告**

平成23年度の中部支部総会は年度末開催（3月）を予定していたため過半数の支部役員の出席不能ということで、ネット上での支部総会となりました。以下簡単に議事を報告します。

支部長：岡本　武昭（浜松学院大学）

まず、報告事項として、１）昨年10月1日の日本比較文化学会総会（於：弘前学院大学）で正式に中部支部の設立承認、２）中部支部ニュースレターの発刊、３）支部長代行に渡部いづみ氏、４）預金口座開設、５）支部研究発表会開催（報告者：上野咲江、白鳥絢也）、６）新入会員2名、７）等々です。

議案については、１）新年度（平成24年）中部支部役員について：事務局長に渡部いづみ（浜松学院大学）氏、他の役員は全員留任、２）研究会は年数回、開催場所は弾力的に決める（本年第1回の予定：静岡市）、３）役員会開催数は年4回、５）第2号ニュースレター発行、６）会計報告等々でした。

**平成24年度中部支部役員一覧**

支部長：岡本武昭

副支部長：澤田敬人、川口雅也、安藤雅之

支部幹事：津村公博

事務局長・会計:渡部いづみ

会計監事：白鳥絢也

支部ニュース編集：加瀬谷恵

ハラスメント委員：太田敬雄、加瀬谷恵

**平成23年度中部支部役員会　開催経過報告**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　事務局長：渡辺いづみ（浜松学院大学）

・2010年5月15日（土）日本比較文化学会東海地区研究会　浜松楽器博物館　於　研究会後の懇談会にて中部支部設立準備打ち合わせ

・2010年6月21日（月）日本比較文化学会　中部支部設立打ち合わせ　紅すずめ　於

・2010年9月18日（土）日本比較文化学会関東・関西合同研究会　浜松楽器博物館　於　研究会後の懇親会にて中部支部設立準備打ち合わせ

・2010年10月1日（金）日本比較文化学会　中部支部設立打ち合わせ　ホテルクラウンパレス浜松　於

・2010年11月5日（金）日本比較文化学会　中部支部設立打ち合わせ　ホテルクラウンパレス浜松　於

・2010年12月10日（金）日本比較文化学会　中部支部設立準備会（議題①支部会則の検討②現会員の確認③今後の予定④その他）　浜松多文化共生センター　於　終了後　懇親会（セルビッツ）

・2011年3月19日（土）日本比較文化学会　中部支部設立総会（議題①議長選出②支部設立経過報告③役員選出④その他⑤研究報告　津村先生・川口先生⑥懇談会）浜松多文化共生センター　於　終了後　懇談会（同会場）

・2011年10月22日（土）日本比較文化学会　第1回中部支部役員会　浜松学院大学　於

・2011年12月22日（木）日本比較文化学会　中部支部会　浜松学院大学　於　終了後　懇親会（いと半）

・2012年2月18日（土）日本比較文化学会中部支部研究発表会（研究報告者　上野氏・白鳥先生）　浜松多文化共生センター　於　終了後　懇談会（同会場）

・2012年3月8日（金）日本比較文化学会支部総会（ネット上）

・2012年4月24日（火）平成24年度第1回　日本比較文化学会中部支部役員会　クリエート浜松　於

・2012年5月　日本比較文化学会中部支部　臨時役員会　ネット上

**平成23年度支部決算報告**



**第2回研究発表会報告**

２０１２年２月１８日（土）、多文化共生センターにおいて第２回研究発表会（例会）が開催されました。二報告の要旨を掲載いたします。

多文化教育への提言－ブラジル教科書活用の視点から－

白鳥　絢也（星槎大学）

国際化の急速な進展により、異なる国家や地域、民族、環境のもとに生活している人々が相互に交流・交錯し、良好な関係を保ちつつそれぞれの文化や歴史の個性を認め、異質性を尊重し、「共生」することが21世紀の基本的課題となっており、この意味で多文化共生教育の意義は益々高まっている。近年では、1990年の「出入国管理及び難民認定法」（入管法）の改定施行で合法的に就労が可能となった南米日系人やアジア系外国人のニューカマーが急増し、日本の多文化社会化が急速に加速したと同時に、同伴する学齢期の子どもたちも増加することとなったのは周知のとおりである。

本研究は、日系ブラジル人の子どもへの教育実践を視野に、日本人と外国籍の子どもたちが、同じ教室で机を並べて共に学びながら仲良く「共生」できるための共通の「教材モデル」を開発することを目的としている。背景には、外国籍の子どもたちのための「教材」の問題が見過ごされていることが指摘できる。現実的には、初歩の日本語教材や現行教科書を用いての授業実践がほとんどであり、日本人と外国籍の子どもたち両者にとって有益であるという視点からの教材開発は皆無であるといえる。そこで、そのモデルケースとして「ブラジルの教科書」に着目し、日本人とブラジル人の子どもとが「共に学ぶ」教材の開発と実践に着手する。具体的には、ブラジルの小学校「国語」及び「社会」の教科書の分析を通して、ブラジルの子どもたちは何を学んでおり、ブラジルの教育はどのような人間を育てようとしているかについて検討した。

両教科書に共通していることとして、①練習問題が多数設定されていること、②教科書への書き込みが可能なつくりとなっていることが特記できる。また、ブラジルの子どもたちは、教科書から自国の実情を学び、さまざまな作業が盛り込まれた学習をしており、ブラジルの教育は自国の実情を正確に理解し、ブラジルで生きていくための判断力や行動力、問題解決能力等を身につけた人間を育てようとしているということが明らかとなった。

　ブラジルの教科書を日本の公立学校で活用することにより、ブラジル人子女は母国の文化や社会を知ることができ、日本人子女はブラジル人子女と同じレベルでもって、外国の文化や社会を知ることができる。さらに、ブラジルに対しての一般的なとらえ方にとどまらず、実際的・現実的なとらえ方が可能となるのである。ブラジルの教科書を用いての授業実践が、ブラジル人子女にとっても日本人子女への国際理解教育にとっても有効なものとなると考えられる。

芸者と地域社会　～伊東温泉で暮らした「小寿々」の一年～

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　上野咲恵（静岡県立大学大学院）

私は伊東温泉で１年間にわたるフィールドワークを行い、その成果に基づいて温泉街の芸者の実態を明らかにし、それが地域社会とどのように結びついているのかを併せて考察しました。本研究会では、フィールドワークの経験を中心に温泉街の芸者の実態と地域社会とのつながりについて発表しました。

「芸者」のイメージと言えば、京都の舞妓や芸妓が一般的ですが、日本各地の温泉地にも芸者は存在しています。しかし、温泉地の花柳界と芸者はほとんど注目されることがなく、文献や先行研究も多くありません。そこで、私は温泉地の芸者に注目して研究を進めました。フィールドワークは2010年3月中旬から2011年2月末にかけて行いました。実際に芸者「小寿々」として働きながら、参与観察と聞き取り調査を進めました。

伊東温泉に芸者社会が生まれたのは江戸時代末期であり、昭和40年代が最盛期でした。芸者数は750名にのぼりましたが、現在では、芸者数40名程度でお座敷も少なくなっています。伊東温泉で私は「芸者」として暮らしていました。週３回の日本舞踊の稽古に参加し、お座敷にも出ていました。お座敷は、少ない時で月に1回、多い時は６～７回ありました。フィールドワークにおいては、お姉さん（先輩芸者）と信頼関係を構築することが非常に重要でした。そのために稽古には欠かさず参加し、準備、後片付けなどを積極的にやりました。伊東温泉では、観光客が芸者姿に変身する事ができる「お座敷文化大學」というイベントが行われており、その手伝いを積極的に行いました。「とにかく場に参加する」ということを大切にしました。日本舞踊や三味線、お座敷遊び、会話術、接客の仕方などは全て芸者の「芸」であり、その習得方法は「芸を盗む」というものです。日本舞踊の稽古においても、他の人の稽古を見て学ぶことが非常に重要視されました。お座敷内においても、その方法が実践されており、お座敷遊びなどはお座敷の中で伝承されてきました。そのため、稽古の間も、お座敷の間もお姉さんの動きを見て学ぶことが非常に大切でした。

　伊東温泉において、地域住民と芸者の結びつきは深く、地域住民が芸者を積極的に呼び、芸者を応援しようという機運も高まっています。芸者自身も地域をアピールし、町を活性化したいという思いを持っています。今も昔も伊東温泉の「きれいどころ」は芸者であり、伊東温泉において芸者は欠かせない存在だと言えます。

**新役員選任について**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　支部長：岡本　武昭（浜松学院大学）

５月末から６月上旬にかけて臨時役員会、支部総会を開催し、新役員に常葉学園大学・安藤雅之教授の中部支部の副支部長が承認されましたので報告いたします。

**第3回中部支部研究発表会　発表者募集のご案内**

以下の日程で支部研究会を開催いたします。

　　日時：９月２２日（土）　１４：００～１７：００

　　場所：静岡労政会館

発表を希望される方は、日本比較文化学会のホームページに掲載の「研究発表申込書」に必要事項を漏れなく記入し、**平成24年8月25日（土）**までに支部渡部いづみ先生まで宛てた電子メール（ファイルを添付）または郵送でお送りください。

**「研究発表申込書」の送付用メールアドレス**　watanabe-I@hgu.ac.jp

**「研究発表申込書」の郵送宛先**〒432－8012　浜松市中区布橋3-2-3　浜松学院大学現代コミュニケーション学部　渡部いづみ研究室気付　日本比較文化学会中部支部

電話053-450-7000

**中部支部研究発表会　名古屋地区開催者募集のご案内**

今後、名古屋地区においても中部支部研究発表会を開催することを予定しております。

つきましては、名古屋地区での研究発表会開催推進の意思がある方を募集致します。

中部支部をより充実、発展させていくために是非ご協力頂きたく、お願い申し上げます。

開催を希望される方は、下記までご連絡下さい。お待ちしております。

ご連絡先：053-485-6948

[tk-okamo@khaki.plala.or.jp](http://jp.mc1008.mail.yahoo.co.jp/mc/compose?to=tk-okamo@khaki.plala.or.jp)(支部長：岡本　武昭)

『中部支部ニュース』第２号

日本比較文化学会中部支部